

人間動物関係学特論 (2単位)

担当者氏名 小川 博・佐々木剛・増田宏司・松林尚志・岡 奈理子・秋篠宮文仁

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

人の生活には様々な動物との関わりがある。人間にとって野生動物は重要な資源であるだけでなく、生態系の一員であることから環境の指標でもある。また、すべての家畜は人間が野生動物を長い時間をかけて家畜化したことにより生じたものであり、その動機や過程には食料としての必要性だけでなく、人間の様々な文化的背景が密接に関係している。特に、伴侶動物は人の生活を豊かにしてくれる存在であり、人にとって動物の社会的役割は多様である。本科目では動物の遺伝的、生理学的、行動学的特性および暮らしの中の動物の位置づけと人への影響など、人と動物の様々な関わりと動物の社会的役割を理解し、動物とのより良き共生とその活用を推し進める力を付けることを目的とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

野生動物	家畜化	歴史と文化	遺伝的多様性
動物の行動特性	動物の社会的貢献	動物の管理	人と動物の共生

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	人間動物関係学とは	人間動物関係学で展開する内容の概要把握	◎動物と人との様々な関係について、歴史的、文化的、農学(バイオセラピー学)的な視点から考え、認識を深める。◎授業内容について事前に学習し、講師に質問をするよう努めること。講義中に示された課題について、講義後復習すること
2	集団の遺伝的構造	遺伝的背景から探る野生動物の集団構造とは何か	
3	遺伝的多様性	集団を認識した保全計画と生物多様性の関わり	
4	動物の生理	動物の生理学的特性と環境適応	
5	動物の感覚・認知	動物の感覚能力、学習能力、認知能力と情報伝達	
6	人と野生動物との関係	家禽の野生原種、家禽化とは何か	
7	生き物文化	家禽化の文化的、生物学的背景	
8	生息域外保全	野生動物の生息域外保全、野生動物の飼養	
9	人と動物の関係	暮らしの中における動物との関わり	
10	人と伴侶動物の関係	伴侶動物の社会貢献	
11	動物の飼育	伴侶動物の飼養管理	
12	伴侶動物の福祉	動物の福祉	
13	野生動物の活用	家畜化された野生動物の自然史を知る	
14	伴侶動物の活用	伴侶動物を活用した人の活動	
15	総括	動物と人との新たな関係とは	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

鶏と人/ 秋篠宮文仁 編著 / 小学館 (2000年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

バイオセラピー学入門/山口裕文・林良博 編著(講談社)(2012)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題への対応状況により評価する

◆オフィスアワー

毎週月曜日と火曜日の2限に研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

担当者によっては開講日を変更する場合があります
